

The Association of College and Research Libraries A Division of the American Library Association

Guidelines for Instruction Programs in Academic Libraries 「大学図書館における教育プログラムのためのガイドライン」

2003年6月 ACRL理事会承認

序文

大学図書館は、大学の教育的使命に参画し、支援し、それらを達成するために、情報リテラシーの中核となる能力（情報ニーズの特定、必要な情報へのアクセス、情報の評価・管理・応用、情報の使用の法的・社会的・倫理的側面の理解に関わる能力）の教育を通して、コミュニティを構成している他の部署や人材と協力する。そのためには、図書館の予算編成プロセスを含む戦略的な図書館運営計画全体と協調した形で、教育プログラムおよびサービスが体系的に提供されなければならない。大学内の他の部署と調和の取れた計画を策定するためには、図書館運営計画の一環として、それらの機関と共同で戦略立案を行うことも必要となるだろう。

効果的な教育プログラムを策定する大学図書館職員および研究図書館職員へ最高の支援を提供するために、以下のガイドラインを推奨する。

I. プログラムの設計

A. プログラムの目的

図書館は、その教育プログラムの使命を、以下の要素を満たす文書にまとめること。

- 大学の教育的使命および学習コミュニティのニーズに照らして、教育プログラムの目的がまとめられている。
- 情報リテラシーに関する目標と全般的な成果の形成において、大学全体が関与している。
- 「Information Literacy Competency Standards for Higher Education（高等教育のための情報リテラシー能力基準）」に沿った目標が設定され、情報リテラシーの定義が明確に記述されている。
- 学習理論、態度、教育レベル、人生経験、文化、技術を使いこなす技能のレベル、その他、キャンパスから自宅の距離（通信教育の生徒の場合）などの学習者の諸々の状況などを含む、学習コミュニティの多様な性質が認識されている。
- 教育プログラムは、学習者が、直近のカリキュラム上の活動のみならず、職場、キャリア、継続教育、自己啓発および生涯教育など、学校の教室を離れた場所で情報を使用する場合に備えて提供されるものであることが認識されている。
- 適切な時期に見直され、修正されることにより、大学および学習コミュニティに関する変更事項が反映されている。

B. 教育内容の特定

個々の大学は、その学習コミュニティのニーズに基づいて教育内容を決定するが、図書館は、期待される学習成果を明確に提示すること。大学あるいはキャンパス全体で設定している学習目標は、「高等教育のための情報リテラシー能力基準」に沿ったものであること。「高等教育のための情報リテラシー能力基準」は、明確な基準、パフォーマンス指標、および成果を提示し、情報リテラシーに関する大学の運営計画策定の枠組みを提供するものである。図書館特有の学習成果は、「情報リテラシーに関する教育の目的」と連携していなければならない。「情報リテラシーに関する教育の目的」は、教育担当の図書館職員が、より包括的な「能力基準」を基にしてさらに発展し、図書館と大学両方の情報リテラシー目標に照らして個別の評価可能な成果を明確化する際に、支援することを目的として策定されている。「能力基準」と「目的」は併用できる。すなわち、情報リテラシーの内容について図書館外部の大学運営者および教員と議論する際には「能力基準」を使用し、図書館内部で実際に計画を策定し設計する際には「目的」を使用すること。

「情報リテラシー関連プログラムのベストプラクティス事例の特徴：ガイドライン」は、プログラムの内容を立案する際の成果測定を可能にするものであり、前述の各ガイドラインは、プログラムに理論的な輪郭を与えるものである。

C. 教育方法の特定

実際の教育は、様々な方式で、様々な教育方法を使用して行われる。これには、以下の要素を提供することも含まれる。

- 対面のレファレンスの過程における個人へのアドバイス
- 研究に関する詳細な相談および面会
- 個別指導
- 電子または印刷物による教育支援
- 従来型あるいは電子機器を装備した教室でのグループ指導
- ウェブ版チュートリアルおよびウェブによる指導
- 非同期的教育法（Eメール、掲示板）
- 同期的教育法（チャット、ビデオ会議）
- コースウェア
- 上記の手法を組み合わせた、ハイブリッド学習あるいは分散学習、または通信学習

選択した方法は、健全な情報リテラシー教育の内容とその目標に合致するものでなければならない。必要に応じて、個人およびグループの様々な学習スタイルを考慮し、複数の教育法を使用すること。教育方法に関する指示と説明については、「*Sourcebook of Bibliographic Instruction*（書誌教育のソースブック）」を参照すること。

可能であれば、教育を行う際に、情報リテラシースキルと呼応した批判的思考スキルを学習者に体得させるための、能動学習の戦略およびテクニックを採用すること。学習のプロセスへの生徒の関与を強化し、情報の取得・評価・使用に対するアプローチがより奥深いものになる可能性を広げるために

は、こうした能動学習の戦略およびテクニックを大学の教員と連携して教育しなければならない。講座ごとの能動学習の課題については、「*Designs for Active Learning: A Sourcebook of Classroom Strategies for Information Education*（能動学習の設計：情報教育のための授業戦略のソースブック）」に役に立つ例が挙げられているので参照すること。

教育プログラムを計画する際には、地域のニーズや参加可能なスタッフに応じて、幅広い人材の専門性を活用すること。活用可能な専門性には、以下のようなものが含まれる。

- 指導設計／指導手法：能力開発担当部署、指導／学習センター
- 技術統合：技術サポート・センター
- アセスメント、調査：指導／学習センター、大学の研究／評価担当部署
- 生徒の構成／特徴：大学の研究生活・大学生生活担当部署

D. プログラムの構成

それぞれの大学で、教育プログラムに対する包括的なアプローチを策定することになるが、優れた包括的プログラムには、以下の要素が含まれるだろう。

- 構成が明確で、入手しやすい文書に記述され、プログラムの様々な構成要素の相互関係を示していること。
- 大学の主要なカリキュラムや活動（例：一般教養、文章講座など）に統合された関係にあり、プログラムに横のつながりがもたらされていること。
- 情報リテラシーの学習成果の進展具合が、複雑さを増す学習成果に対して、生徒の学術的キャリアに適合しており、プログラムに縦の統一性がもたらされていること。情報リテラシーに関するプログラム立案は、入学1年目あるいは一般教養課程のみにとどまらず、専攻内の訓練専門の授業または講座においてもなされていること。

これらの一般的ガイドラインを満たすため、大学で既に実施されている、あるいは策定中のカリキュラム内で、情報リテラシーに関するプログラムに対して発展型かつ「段階的」アプローチを支持する教育プログラムを実施しなければならない。教育担当の図書館職員自身は、図書館の教育プログラムと大学全体の学習環境の間に、大学がより深い相互作用をもたらすような新しい活動の実施やカリキュラムの再設計の機会を探ること。

教育プログラムを盛り込むことができるカリキュラムおよびプログラム構成例には、以下のようなものが含まれる。

- 1年生向けセミナー、カリキュラムの枠を越えた文章講座
- 一般教養のコア科目
- 分野専攻における研究手法関連講座
- キャップストーン・コース、学習コミュニティ、学習仲間
- 学部レベルの研究体験またはインターンシップ制度
- 単位取得可能な関連講座

- 体験学習またはサービス学習講座

E. 評価とアセスメント

評価とアセスメントとは、体系的な継続的プロセスであり、意思決定に際して教育プログラムについての情報を供給するためにデータを収集することが必要となる。収集されたデータは、教育プログラムが大学の理念または目的に沿っていることを示すものでなければならない。

- 複数の評価尺度や手法に対応したプログラム評価計画を策定すること。こうした評価尺度には、ニーズのアセスメント、参加者の反応、学習成果、指導効果、教育による全体的な効果などが含まれる。
- プログラム評価の基準は、プログラムの目的、詳細、成果に関する入手しやすい文書に明記すること。
- 具体的な学習成果を対象とし、具体的なアセスメント手法を特定すること。
- 査定に際して、教員との調整を図ることが重要である。なぜなら、学習成果に関しては責任を共有しているからである。
- 具体的な学習成果に関するプログラムの評価とアセスメントのいずれについても、データを定期的に収集してプログラムの再考プロセスにて活用し、プログラムを継続的に改善すること。具体的な学習の欠如に関しては、継続的で成長に寄与する方法で対応すること。

II. 人材

教育プログラムにおける図書館の使命を述べた文書の中で定めた目標を達成するために、図書館は、十分な人数の、適切な教育レベル、経験、専門性を持った人材を雇用、育成、あるいは確保すること。その目的は以下の通りである。

- 大学コミュニティの中の個人やグループに教える
- インストラクショナルデザインのプロセスを活用し、様々な教育プログラムやサービスを設計する
- 多様な教育活動の促進、マーケティング、管理、調整を行う
- アセスメント・データを収集および解釈し、教育プログラムやサービスを評価および更新する
- 必要に応じて、教育に関する技術を学習活動に導入および応用する
- 入手可能なメディアおよび電子技術を使用して教材を作成する
- 教員その他の学術専門家と連携して、情報リテラシー関連プログラムを立案、実施、査定する
- 技術、環境、コミュニティの変化に対応する

教育プログラムの多くが、教育学、インストラクショナルデザイン、アセスメント、その他教育に関する問題を専門とする、指定のプログラムマネージャー、あるいは調整/監督グループを設置してい

る。教育プログラムの基礎的管理／調整管理を行っている者は、責任の範囲を明確に規定した職位記述書を作成しなければならない。

III. サポート

優れた教育プログラムに対するサポートには、様々な側面があり、それらは相互に依存している。サポートのレベルは、プログラムの範囲と規模、そして機関の他の部署との関連に応じて設定される。

A. 教育施設

図書館は、教育プログラムの目的を満たし、教育プログラムの学習コミュニティも利用可能である装備を備えた、十分な規模と数の施設を有しているか、使用することができる状態にあること。教育環境は、ユーザーが利用可能な装備や技術を再現していること。最低でも、こうした施設は、教育担当者が、所定の学習空間で、適切な技術を用いて、幅広い学習者に対して情報システムを実際に運用してみせることができる装備を備えていなければならない。施設では、教育を受ける者に対して、実際に体験する機会が与えられることが望まれる。必要に応じて、能動的学習と生徒同士の連携に対応することが可能になる程度の柔軟性が求められる。

B. 教育支援施設

図書館は、様々な形式の教材を設計、作成、再現、更新するために必要な設備とサービスをいつでも利用することが可能でなければならない。教材の作成と保管のために十分なスペースを確保すること。

C. 財政的支援

- 教育プログラムは、その規定の目標の達成に用途付けられた十分な資金を有すること。
- 教育プログラムの財源は、生徒、事務員、技術に関する支援を含む全ての人件費を賄うことが可能であること。
- 財源は、各種消耗品および教材・設備または設備の利用・教材の設計、作成、再現、見直し・教育プログラムの促進と評価・その他の個別の費用を賄うことが可能であること。
- 予算配分のプロセスには、変化に対応するための設備およびソフトウェアの交換および拡充の余地を設けること。
- 財源からは、教育プログラムに関わる者のトレーニングおよび継続教育の資金も提供すること。
- 大学内の他の部署との連携による教育プロジェクトでは、必要に応じて、予算の負担を分担すること。
- 可能ならば、教育担当スタッフは、教育プログラムをさらに拡大し拡充するために、人材育成担当職員や、外部資金調達の責任を負う職員の専門技能を活用すること。

D. 継続教育、トレーニング、人材育成の支援

専門的スキルを継続的に開発することは、イノベーションや高い倫理性をもたらす雰囲気の確立に役立つ。図書館には、以下のような対策が求められる。

- 新規参加の教育スタッフ向けのオリエンテーションとトレーニングに関する体系的プログラムを提供する。
- 継続教育プログラムを開発すること、または継続教育を受ける機会を提供すること。
- 必要に応じて、継続教育と、技術の応用・調査・その他の教育関連のプロジェクト開発に従事するスタッフに導入期間をとること。

参考文献

ACRLおよびACRLの教育セクションの参考文献は以下の通り。

ACRL's Institute for Information Literacy, "Characteristics of Programs of Information Literacy that Illustrate Best Practices: A Guideline," www.acrl.org の「Standards and Guidelines」をクリック。

Gradowski, Gail, Snively, Loanne, and Dempsy, Paula, eds., *Designs for Active Learning: A Sourcebook of Classroom Strategies for Information Education*, (Chicago: American Library Association, 1998).

Objectives for Information Literacy Instruction: A Model Statement for Academic Librarians. ACRL, Instruction Section, 2001, www.acrl.org の「Standards and Guidelines」をクリック。

Branch, Katherine, et al., eds., *Sourcebook for Bibliographic Instruction*, (Chicago: American Library Association, ACRL, Bibliographic Instruction Section 1993).